



図書館サポーターズだより

明日に吹く風



はじめじめ、もやもやと雨や台風の多い時期がやってきました。梅雨の風に乗せて、夏の匂いも感じるこの季節も、サポーターズがオススメの一冊をご紹介します。暑さ対策に、水分補給とともに、本を読みながら一息ついてみるのもいいかもしれません。

～図書館サポーター推薦図書～

『ミステリ国の人々』

有栖川 有栖 著 (902.3 || A76)



ミステリー、いやミステリは好きですか？有名なシャーロック・ホームズをはじめ明智小五郎、金田一耕助、神津恭介といった名探偵たちの名前を一度は聞いたことがあるはず。そんな推理小説ならではの人物たち（ミステリ国の人）から主役・脇役を問わずにピックアップし、その紹介した人物を通して作品だったり、作者だったりを紹介していったエッセイのまとめ本です。50 人以上の人物が様々な作品から取り上げられており、その話を知っていても知らなくても楽しめるものになっています。ミステリ好きにはもちろん、あまり推理小説は読んだことがないという人もミステリ本のガイドブックとして、一度読んでみてはいかがでしょうか？新しい発見が待っているかもしれません。 (M・K)

『名もなき毒』

宮部 みゆき 著 (913.6 || Mi71)



今多コンツェルン広報室でアルバイトをしている原田いずみは、経歴詐称とクレーマーなど、嘘八百を並べるトラブルメーカーであった。その後、原田いずみは今多コンツェルンを解雇されることとなった。

ある時、広報室に原田から、主人公の杉村三郎の義父、嘉親宛てに訴訟を起こすという手紙が送られてきた。そのころ、街では「無差別連続毒殺事件」が注目を集めていた。嘉親の命を受け、原田との連絡窓口となった杉村は、その出会いをきっかけに、自ら連続毒殺事件へと足を踏み入れ、事件の真相へと近づいていくのである。

『誰か Somebody』から約一年後の出来事が描かれている作品です。ドラマ化でも話題となった、吉川英治文学賞受賞作です。ぜひ、手にとってご覧ください。 (R・Y)

『ものの見方が変わる』

座右の寓話』

戸田 智弘 著 (908.7 || To17)



この本は古今東西から集められた 77 の寓話と、それに対する作者の解釈が述べられています。寓話とは、簡単に言うと教訓や真理を伝えてくれるお話のこと。有名なものだと聖書の「タラントンのたとえ」やポルトガルの「スープの石」でしょうか。ひとつひとつは 1,2 ページに収まるくらい短いけれど、思考させられるものばかりです。

私はこの本に納められた寓話の中では『ファミリー・クリスマス』というお話が一番好きです。しあわせに生きる考え方のヒントをもらったような気持ちになりました。

この本は、読むだけではなく、思考をめぐらせ、ひとつひとつの寓話を自分なりに解釈してみてください。きっと力になると思います。

(M・S)

*図書はメインカウンター脇にあります。ご利用ください。

